

今月のイチオシ「花と緑の滋賀シリーズ」

米原市の市民協働事業「自伐型林業」の取り組みについて

💧 「水源の里まいばら元気みらい条例」の制定

米原市は、伊吹山を頂点とする南北に連なる峰々から琵琶湖へとつながる水の流れの上流に位置するまちであり、澄んだ空気を再生する森林を守り、命を育む大切な水を人々に届けるという重要な使命を持っていることから、平成 21 年 6 月に「水源の里まいばら元気みらい条例」を制定し、水源の里である農山村地域の発展に向けた施策を展開しています。

💧 木材の地産地消・林業の 6 次産業化

琵琶湖の水源である森林を健全な姿で未来に引き継ぐためには、間伐等の森林整備やかつての薪炭林の里山整備を計画的に進め、広葉樹を含む木材を生産し、その木材に建材、家具、エネルギーなど多様な価値を付加する地産地消・6 次産業化の取組を広げ、山村地域経済の活性化、市民・消費者の安全安心および森林環境の保全を図る「三方良し」の自立・持続的な林業が求められます。

💧 「自伐型林業みらいつくり隊」3 人に委嘱

そこで、市では、市民団体「東草野まちづくり懇話会」による取組が始まっている市最北部・姉川源流域の東草野地域において、三方良し林業の担い手・リーダーにチャレンジする『自伐型林業みらいつくり隊員（やまもりびと）』を今年 7 月に募集し、草津市、京都市から計 3 人の隊員を採用して、10 月 2 日に米原市役所にて「委嘱式」を行いました。

💧 全国的に注目される「自伐型林業」

自伐型林業とは、森林組合等が他所の山林に出向いて高性能林業機械で効率的かつ大規模に間伐施業する事業とは対照的に、地域住民や移住者自らが、低コストで環境負荷が少ない最小限の装備を用いて、少人数で自分たちの山林を永続的に経営・管理するスタイルのことで、中山間地域再生の切り札として全国的に注目されています。

💧 市民団体との協働事業、「みらいつくり隊」へ高まる期待

東草野地域では、市民団体が確保した米原市甲賀地先のモデル演習林において、平成 27 年度から自伐型林業の試験的な取り組みが実施されており、NPO 法人自伐型林業推進協会の協力のもと、市内外から参加者を募って「自伐型林業担い手育成塾」を連続開催したり、県の補助金を活用して森林作業道を作設したり、炭焼窯を復活するなどの活動が行われてきましたが、これらの事業を継続的に引き継げる担い手として、今回のみらいつくり隊の 3 人に大きな期待が寄せられています。

💧 米原・東草野地域での新たな挑戦、来春からいよいよ本格始動

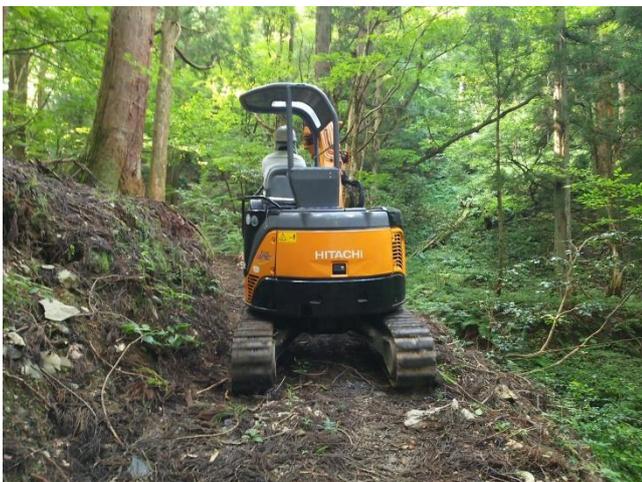
3 人のうち 1 人は「自伐型林業担い手育成塾」の修了生で、以前から琵琶湖を保全したいとの思いから水源の森での森林ボランティア活動を続けていたものの、本格的な林業は 3 人も経験がなく、現在は、森林作業を安全・確実に行える技術・技能の習得を目指して研修に励んだり、移住先の古民家の改修に取り組んだり、林業だけで生計を立てることは難しいことを念頭に、田舎で実現可能な「複業」づくりを計画したりしています。雪がとける来春以降、モデル演習林での本格的な自伐型林業がスタートする予定です。



「水源の里まいばら自伐型林業みらいづくり隊」
委嘱式 10/2 米原市役所にて



チェーンソーによる安全な伐木技術・技能研修会
(森づくり安全技術・技能全国推進協議会 主催)
10/6~9、27~29 高尾グリーンセンターにて



壊れない森林作業道づくり実習 11/25~27
モデル演習林 (米原市甲賀) にて



「担い手育成塾」で伐倒した間伐材を活用して
試作した木組みの積み木「KUMINO」
(クミノ工房 (東近江市) に製作委託)



モデル演習林の「雑木林保全活用ゾーン」に
ひろがるコナラ等



H28年5月、モデル演習林の作業道ルート沿いに
復活した「大正窯」

【お問合せ】米原市 経済環境部 林務課 (担当:堀澤)

TEL (0749) 58-2229 FAX (0749) 58-1630 E-mail rinmu@city.maibara.lg.jp

住所 〒521-0392 滋賀県米原市春照 490-1 (伊吹庁舎)

平成 29 年 9 月 21 日

資 料 提 供

報 道 各 位

米原市経済環境部林務課

(伊吹庁舎内)

担 当：北村、堀澤

電 話：(0749)58-2229

F A X：(0749)58-1630

水源の里まいばら 自伐型林業みらいづくり隊員の委嘱について

このたび、「ヒトが生きるにはココチよい。びわ湖の素・米原」の水源に一番近い里山である東草野地域で、同地域のまちづくり団体「東草野まちづくり懇話会」との協働により、自伐型林業をテーマとしたみらいづくり隊員を委嘱することとなりました。

隊員には、地域の里山の集約や自伐型林業によって収入を生み出す仕組みづくりなど、持続的な経営につなげていく取組に従事していただく予定です。

つきましては、下記のとおり隊員への委嘱状交付式を開催しますので、よろしくお願い申し上げます。

記

1 日時 平成 29 年 10 月 2 日（月）午後 1 時 30 分から

2 場所 米原市役所米原庁舎 2A 会議室

3 内容 委嘱状交付、隊員紹介など

4 委嘱までの経過

- ・平成 28 年度に東草野まちづくり懇話会が東草野地域で持続可能な自伐型林業の経営モデルの構築を計画
- ・平成 29 年度に当該計画を市との協働事業として実施することに決定
- ・協働事業として行う自伐型林業の担い手として、総務省の地域おこし協力隊制度を活用して、自伐型林業をテーマとしたみらいづくり隊を設置することとした。
- ・平成 29 年 6 月に募集開始、選考を経て 8 月に 3 人の候補者を決定、10 月 1 日委嘱



自伐型林業地域おこし協力隊事業

予算額: 9,200千円

自伐型林業の担い手として、地域おこし協力隊の参画により東草野地域の里山資源の循環による地域経営を進めます。

現状・課題

- 所有者の不明確な山林の増加
- 鳥獣被害の拡大、里山の荒廃

解決策

- 東草野モデルによる地域の協働の取組
- 自伐型林業の担い手としての地域おこし協力隊参画

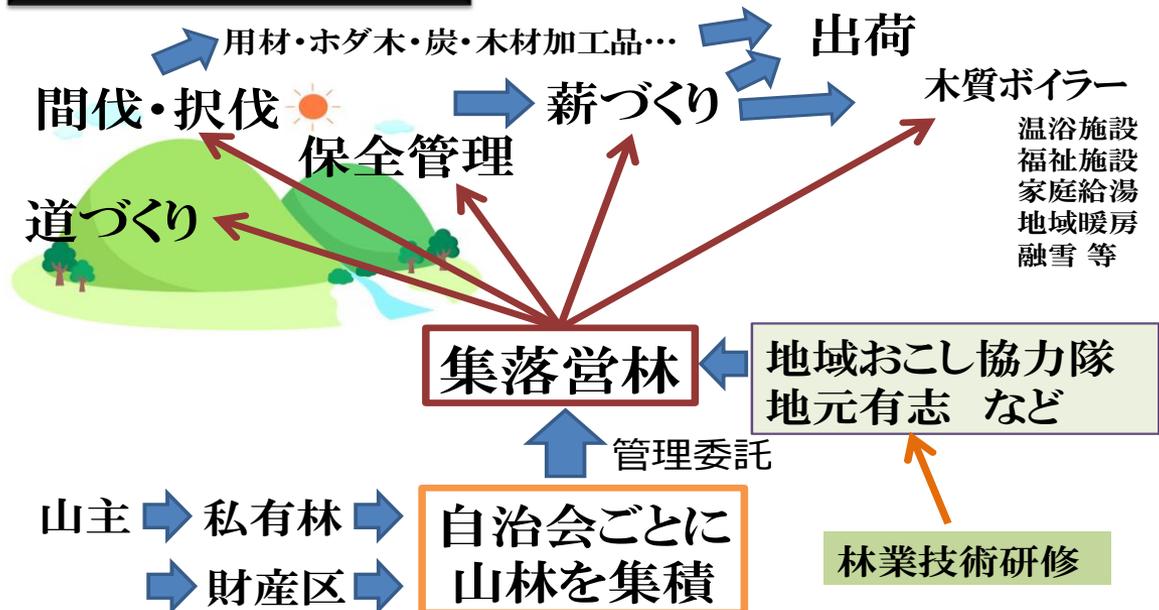
7月募集 10月採用

実施効果

- 里山の整備、保全管理による、木材資源循環の仕組みの構築
- 地域おこし協力隊員の定住による地域の活性化

東草野モデル(案)

“集落営林”で、灯油がいない村づくり!



自伐型林業とは、森林組合等事業体に委託せず、個人や団体が自ら山の管理を行い、林業を行う。作業を行うための設備投資も少なく、誰でも参入しやすい林業。作業を行う人は、副業で始めることもできる。

水源の里まいばら自伐型林業みらいづくり隊員 紹介資料

すずき こうへい
 鈴木 孝平 さん (男性・28歳)
 京都府京都市 ⇒ 甲津原へ移住

動機	関係者の想いや資産的価値を持っていたはずの山林が放置されている現状で、その山林を整備する自伐型林業に魅力を感じたことや、みらいづくり隊であれば豊かな自然で技術を習得でき、兼業のスキルを身に着けながら生活できるのではないかと思い、隊員に応募した。
プラン	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹の間伐⇒B材を原木工場へ出荷 ・C材をチップ工場またはバイオマス発電所へ出荷 ・薪づくり+試験的に炭作りも開始(木酢液も採取に挑戦) ・シカ、イノシシなどのスモーク商品の商品発明 ・食器づくり(皿、スプーン、箸)体験 ・家具職人または木工作家との間伐材活用プロジェクト立ち上げ ・楽器づくり(木琴、カホンなどの打楽器、ギターなど)→コンサートイベント開催 ・アロマ、フレグランス開発 ・山林資源活用(カブトムシ、クワガタ採集体験など)サービス ・シカ、イノシシ、鶏などの捌き体験(いのちの体験学習)
略歴	神奈川県出身。大学院修了後、印刷関係の仕事を経て隊員となった。

にしむら りょうこ
 西村 良子 さん (女性・39歳)
 京都府京都市 ⇒ 甲津原へ移住

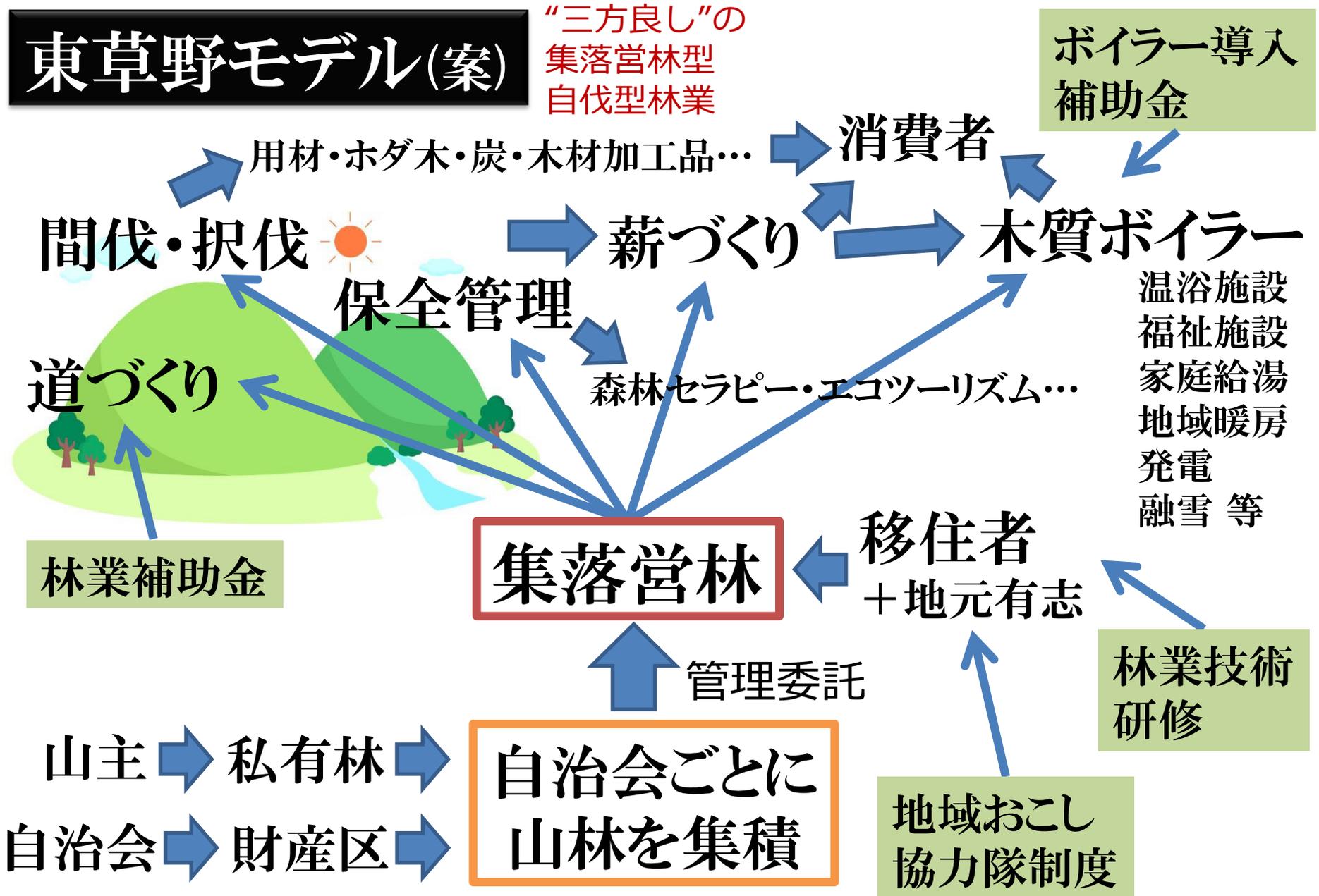
動機	もともと自然農をされており、東草野まちづくり懇話会が目指す「3Sな暮らし」、「昔の里山生活が未来の新しい生活」ということが、自分が目指すベクトルと合致したことで東草野に魅力を感じたことから、隊員に応募した。
プラン	<ul style="list-style-type: none"> ■ナラ、クヌギの活用について ・しいたけ、なめこの原木材料。秋ごろに伐採を開始し、1、2か月乾燥させておく。出荷直前に玉切りし、道の駅やホームセンターに卸す。 ■スギの活用について ・組手仕(スギ材のDIY材で組み立ての際、釘やねじが不要)の製造販売。 ■竹の活用 ・竹ひご、竹炭(消臭剤、建築用材、農業肥料、水道水浄化)、たけのこ、メンマの製造販売
略歴	兵庫県出身。大学卒業後、幼児教育関係の仕事などを経て隊員となった。

めの みきよ
目野 美輝代 さん (女性・48歳)
滋賀県草津市 ⇒ 甲賀へ移住

動機	もともと森林整備に関するボランティア活動を精力的に行っている。そのような中で、米原市が「水源の里」「びわ湖の素」をキーワードに事業を展開し、東草野まちづくり懇話会が「やまもりびと」を求めていることを知り、自分も「びわ湖の水源の森の住民」として、自伐型林業の担い手「やまもりびと」としてその恵みを活かし、自然とともに生きたいと思い、隊員に応募した。
プラン	自伐型林業＝地域エネルギーの自給自足、食・住に関わる資材の自給自足+α 加工品販売 下記利用の可能性調査と基盤、仕組づくり ■木材(枝、草、樹皮含む) ①燃料としての利用(薪・炭)⇒薪ボイラー、薪ストーブの普及 地域内熱利用へ 資材としての利用 ホダ木、木材チップ、たい肥として ②インテリア用品、台所用品、文具、小型家具、遊具(地元ブランド刻印入り)やアクセサリー ・壁掛け用品 ※できれば、織物、染色品、刺繍品等と組み合わせたイメージのもの ・食器類、アロマオイル(一般家庭～学校、福祉施設) ■特殊林産物 しいたけ、なめこ、まつたけ、山菜 ■森という場そのものの活用 ・大人専用遊び場(生涯スポーツの場として)、森林セラピー ・びわ湖水源のやまもりびと養成学校の設立検討
略歴	短大卒業後、一般企業や農業生産法人の仕事などを経て隊員となった。

東草野モデル(案)

“三方良し”の
集落営林型
自伐型林業



懇話会がコーディネート、行政が支援